

# 東京ブロック予選大会要項

大会名称 SMBCカップ 第19回全国小学生タグラグビー大会 東京ブロック予選大会

目的 全国各地の小学生が、ラグビーからコンタクトを除いたタグラグビーをプレーすることにより、ラグビースピリットを通じ、仲間と助け合うことを体験し、自ら考えて道を切り開くことを身につけ、スポーツの意義を実感することを目的とする。

主催 (公財)日本ラグビーフットボール協会

主管 東京都ラグビーフットボール協会

後援 スポーツ庁、朝日新聞社

特別協賛 SMBCグループ

協賛 株式会社 BLK JAPAN

協力 調布市ラグビーフットボール協会  
府中市ラグビーフットボール協会  
八王子市ラグビーフットボール協会

期間 2022年11月6日～2023年1月29日

会場 11月6日(日) 調布ラウンド 調布市西町サッカー場  
<https://www.city.chofu.tokyo.jp/www/contents/1234769461969/>  
11月13日(日) 辰巳ラウンド 辰巳の森海浜公園ラグビー練習場  
[https://www.tptc.co.jp/park/03\\_01/other/01\\_2](https://www.tptc.co.jp/park/03_01/other/01_2)  
11月23日(祝) 府中ラウンド 郷土の森市民サッカー場  
<https://www.city.fuchu.tokyo.jp/shisetu/supotu/sakka/shimin.html>  
(初級・低学年向けフレンドリーフェスティバル同時開催：別紙1参照)  
1月29日(日) 東京ブロック決勝 八王子市戸吹スポーツ公園  
<https://www.tobuki-sp.jp/field.html>

申し込み 所定フォーマットに従い、sc.tag.tokyo@gmail.com まで送付。2022年10月20日(必着)。

競技規則 (公財)日本ラグビーフットボール協会タグラグビー標準競技規則に基づく大会規則に準ずる。

競技方法 予選ラウンドを3回実施後、上位16チームによる東京ブロック予選決勝大会を実施する。各ラウンド、プール戦とトーナメント戦の併用を基本とするが、参加チーム数により決定する。上位16チームの選出は以下の通りとする。  
・ 調布ラウンド 優秀成績を収めた上位4チーム  
・ 辰巳ラウンド 優秀成績を収めた上位4チーム  
・ 府中ラウンド 優秀成績を収めた上位8チーム  
各予選ラウンドで優秀成績を収めたチームは、以降の予選ラウンド参加は認めない。

参加資格 (1) 小学生4～6年生(日本の学期制による)で編成したチームで、学年の編成内容は問わない。  
(2) 原則、単一小学校の参加とする。但し、タグラグビー普及の地域差等により単一小学校でチームが組めない場合は、各都道府県の判断で出来るだけ多くの小学生が参加できるよう参加資格の調整を可とする。  
(3) 参加チームは成人2名が必ず帯同コーチとして引率し、登録選手の保護者から参加の承諾を得ていること。また、大会要項その他主管団体の定める大会規則の遵守を誓約すること。  
(4) 帯同コーチは当該チームを指導掌握し、責任を負う事の出来る者であること。但し、予選大会において帯同コーチが複数のチームを兼任する事は構わない。  
(5) 帯同コーチは所属小学校長(複数であれば総て)の承認を受けていることが望ましい。但し、必ずしも小学校長の承認がなくても、帯同コーチの責任において参加することも可能とする。  
(6) 参加登録費を納めること。

罰則 大会要項、大会諸規約、競技規則について、違反などスポーツマンシップに反する行為があった場合は厳重な処罰を行う。

- 安全対策 (1) 大会期間中は主管団体が所定の救急指定病院を定める。  
(2) 大会期間中は、主管団体が担当医師及びメディカルスタッフ、ウォーターボーイを任命する。  
(3) 試合中の傷害について、当日の応急の医療処置は主管団体が施すが、事後処理はチーム及び保護者が行うものとする。  
(4) 大会期間中の保険は主催者（JRFU）でまとめて加入する。
- 健康管理 (1) 大会参加にあたっては、当該チームにて予め健康管理を行い、充分留意すること。  
(2) 試合中以外での病気傷害についてはチーム内で処理すること。  
(3) 参加選手は必ず保険証またはそのコピーを持参すること。
- 肖像権 大会出場選手の肖像権は主催者にあるものとする。  
※公式ウェブサイト内の掲出や、次年度以降の大会のポスター・プログラム等に使用される可能性がある。
- 費用 (1) 旅費交通費支給はなし。  
(2) 参加費 1チームあたり 2,000 円（含む保険代）  
東京ブロック予選決勝大会進出チームは、別途 1,000 円をご負担下さい。
- 表彰 優秀チームを表彰する。
- その他 (1) 運営にかかる費用は別途定める。  
(2) 開閉会式は各大会にて別途定める。  
(3) 都道府県予選大会の公式戦で使用するタグセット、タグボールは主管団体が用意する。  
(4) ブロック大会は大会公式試合球を使用する。  
(5) 各チーム帯同コーチ 1 名は、他のチーム同士の試合のアシスタントレフリーが務められること。

# 参考資料 1 : 第 19 回 全国大会 大会規則

## 1 グラウンド

グラウンドサイズは横25m×縦30m(ゴールラインからゴールライン)、インゴール(ゴールラインからデッドボールライン)は各5mずつとする。

なお、競技場により、上記グラウンドサイズは主催者の判断で、増減することがある。

### ★本大会用の専用試合コート

ゴールライン		タッチライン		ゴールライン
5m		15m		5m
イン ゴ ー ル		ハ ー フ ウ ェ イ ラ イ ン		イン ゴ ー ル
				25m

## 2 用具

- (1) 大会期間中に使用するタグセット、タグボール、ピブスは主催者で用意したものを使用する。
- (2) ボールは4号球を使用し、空気圧は0.5 ~ 0.6kg/c m<sup>2</sup>。
- (3) タグは日本協会規定サイズ(50 mm× 375 mm)。

## 3 チーム

- (1) 競技グラウンド内にいる5名のプレーヤーと入替可能な2名以上5名以下のプレーヤーから成り、原則として予選大会エントリー時の登録のまま全国大会に出場すること。ただし、プレーヤーの引越し等が生じてチームの人数が4名~6名になった場合はこの限りではない。その際は、帯同コーチは試合出場ができないプレーヤーについての申立書、転校を証明する書類等を大会本部に提出し、許可を得ること。また、この場合の選手補充は認めない。
  - ① コーチは東京ブロック予選大会の各試合において、後半開始時まで登録選手を必ず全員出場させること。これに反する場合、相手チームの不戦勝とする。
  - ② 負傷、疾病が続き、出場可能なプレーヤーが5名以下になった場合、公式試合は行えない。
- (2) 試合開始時、試合に必要なプレーヤー及び帯同コーチが揃わない場合、相手チームの不戦勝とする。
- (3) 帯同コーチは成人2名とする(そのうち1名は、他のチーム同士の試合のアシスタントレフリーが務められること)。コーチは試合中に次のことができる。
  - ① 負傷者の救助等でレフリーの指示があった場合に競技グラウンド内に入ること。
  - ② グランドサイドの主催者が指定する位置で、チームプレーヤーへの教育的かつ建設的助言を行うこと。
  - ③ グランドサイドの主催者が指定する位置でプレーヤーの入れ替えに関する管理を行うこと。
  - ④ ハーフタイムに競技グラウンド内に入り、プレーヤーに給水を行うこと。
  - ⑤ グランドサイドの主催者が指定する位置でプレーヤーの健康、安全管理を行うこと。
- (4) 帯同コーチは大会期間中の選手、自チーム応援者の言動について一切の責任を負う。これができない場合、警告以上の処分が与えられる。
- (5) レフリー、アシスタントレフリー、サブコントローラー、競技役員はチーム、帯同コーチ、観客の言動が悪質な妨害行為にあたりと判断した場合、警告以上の処分を科すことができる。

#### 4 プレーヤーの服装

(1) プレーヤーの服装については以下の通りとする。

- ① チームで統一(スパッツなども含む)された、運動に適した服装(学校体操着など)運動靴またはトレーニングシューズ。スパイクは、一体成型ゴム底のものとし、金属製取替式ポイントは不可とする。  
※詳細は別紙資料1を参照  
また、スポンサー名・商品名等の入ったユニフォームについては事前に事務局にお問合せ下さい。

(2) プレーヤーは以下のものを着用することができる。

- ① 髪留め(ゴム製)
- ② めがね(試合中に脱落しないよう、固定すること。万が一の接触に備えて、強化プラスチック製のものを着用することが望ましい)

(3) 以下の物については着用を認めない。

- ① 手袋(タグの色と紛らわしいため。また、着用の有無による利益不利益をなくすため)
- ② ギブス等医療装具(着用しないとプレーできない場合は出場させるべきではないから)
- ③ その他、タグラグビーをプレーする上で必要ない物

#### 5 選手の入替え

(1) 入替は以下の時に何度でも可。

- ① ポイント(トライ)後
- ② ハーフタイム開始時
- ③ 負傷でゲームが中断した時

(2) 入替は帯同コーチが交代を管理するサブコントローラーに申し出、レフリーが承認して成立する。入れ替えが行われている間、試合は再開しない(時間は継続)。入れ替えを行うチームは速やかに実施できるよう準備する。

(3) 負傷により退場したプレーヤーがその試合に戻ることはできるが、出血している状態で戻ることはできない。

#### 6 試合時間

(1) 試合時間は前半5分ーハーフタイム1分ー後半5分とする。

(2) プレーヤーはハーフタイムには、サイドチェンジを行なった後にチームから飲水を行なえる。ただし、自チームベンチに戻ることはできない。プレーヤーは後半開始時には競技再開ができる位置にいないといけない。  
レフリーは、チームの行為が遅延行為にあたりと判断した場合、相手側のフリーパスによる再開を行う。

#### 7 レフリー

(1) マッチオフィシャルは4名もしくは3名(レフリー1名 アシスタントレフリー1名もしくは2名、サブコントローラー1名)とする。

(2) レフリー及びサブコントローラーは主催者が指名する。アシスタントレフリー1名については、全参加チームの帯同コーチの中から主催者が指名する。 ※レフリー及びアシスタントレフリー、サブコントローラーは主催者が指名する

(3) アシスタントレフリーが1名の場合、レフリーは可能な限りグラウンドタッチライン際より判定を行う。また、レフリーの服装はプレーヤーに準ずる。

(4) アシスタントレフリーはタッチライン沿いで以下を行う。

- ① レフリーの判定の補佐。
- ② 選手の入替えの補佐。
- ③ 負傷者のための試合停止の要請。
- ④ 帯同コーチ・観客の悪質な妨害行為のレフリーへの報告。

(5) サブコントローラーはグラウンドサイド、ハーフウェイラインに位置し、以下を行う。

- ① 選手の入替の管理(全員出場の確認を含む)
- ② 得点の確認
- ③ チーム、帯同コーチ、観客の悪質な妨害行為に対する警告並びにレフリーへ妨害行為を行ったチーム、帯同コーチ、観客を報告する。

(6) レフリーはその試合における唯一の事実の判定者であり、レフリーに対して抗議することは認められない。

(7) レフリーは以下の場合に試合を停止することができる。

- ① プレーヤーが負傷し起きあがれない場合。マッチドクターからの要請による場合も同様とする。
- ② プレーヤー、帯同コーチ、観客に注意を与える場合。  
レフリーが、以上の理由で試合を停止した場合、再開は停止を命じた時点でボールを保持していた側のフリーパスとする（タグの回数は継続）。競技時間を停止する場合、レフリーは明確な方法で試合時間の管理者に伝達する。

## 8 試合時間の管理と試合の記録

- (1) 試合時間の管理及び試合の記録を行う者は主催者が任命する。
- (2) 試合時間を管理するものは、レフリーの合図により試合時間の進行を止めることができる。
- (3) 負傷者の対応により著しく時間をロスした場合、レフリーは自身の判断でロスタイム分の延長を行なえる。

## 9 試合終了(ノーサイド)

試合終了(ノーサイド)はプレーの切れ目ではなく時間によって区切られる。レフリーが試合を停止した場合、その試合はレフリーのノーサイドの合図をもって終了とする。

## 10 試合の勝敗について

ノーサイドの時点で得点数の多いチームを勝者とする。

## 参考資料 2: 東京ブロック予選大会 競技規則

---

### 1 チームサイド(ベンチ・グラウンド)/キックオフ/ビブスについて

- (1) チームサイド(ベンチ/グラウンド)は、対戦表の左側チームが、メインスタンドからグラウンドを見て左側。
- (2) 試合開始時のキックオフは、対戦表の左側チーム。
- (3) ビブスは、1番から順に着用すること。

### 2 プレーの方法

- (1) 前半開始はハーフウェイライン中央からのフリーパスで行います。後半開始のフリーパスは前半開始のフリーパスを行わなかったチームが行います。
- (2) 試合中、二本のタグを左右の腰に1本ずつ付け、自分の足で地面に立っているプレーヤーは、競技規則に反しない限り自由にプレーすることができます。

### 3 アドバンテージ

反則が起きても、レフリーが「反則をしなかった側が有利に試合を進めている」と判断した場合、プレーを続ける場合があります。

### 4 得点[トライ]とその後の再開

- (1) 左右の腰に1本ずつのタグを着け、自立しているプレーヤーが相手インゴール(ゴールラインを含む)にボールを着けると1点が得られます(「トライ」といいます)。
- (2) レフリーは、防御側の反則行為がなければトライが得られた、と判断した場合、トライ(「ペナルティトライ」)を与えます。
- (3) トライ後の再開はハーフウェイライン中央からトライをとられたチームのフリーパスで行います。
- (4) 次の場合、トライは認められません。これらの場合、ボール保持側の5mフリーパスで試合を再開します(タグの回数は継続します)。
  - ① ボールをインゴールに着けたときに両足がインゴールに入っていなかった。
  - ② インゴールでタグを取られた後、ボールを相手インゴールに着けた。

[補足] このフリーパスはインゴールにボールを持ち込んだプレーヤーがパスをすることで始まります。

### 5 タグ

防御側プレーヤーがボールを持っているプレーヤーのどちらかのタグを取り、それを頭上にあげて「タグ」と叫んだら、タグの成立です。

- (1) タグが起きたら、プレーヤーは次のことをしましょう。
  - ① タグを取られたプレーヤーは直ちに前進を止め、ボールをパスします。
  - ② タグを取ったプレーヤーはタグを相手に手渡して返します。タグを取られたプレーヤーは、すみやかに相手からタグを受け取り、タグを腰に着けます。
- (2) 防御側がタグを4回取ったら攻守交代です。4回目のタグがあった地点でのフリーパスから試合を再開します。
- (3) タッチライン上またはタッチラインの外にいるプレーヤーも相手プレーヤーのタグを取れます。

### 6 オフサイド(反則)

タグが起きると、タグを取られたプレーヤーがボールを離れた地点を基準として、ゴールラインに平行なオフサイドラインができます。

- (1) オフサイドラインの前方にいる防御側のプレーヤーは速やかにオフサイドラインの後方に下がります。
- (2) 下がりきれない防御側プレーヤーはボールを持った側のプレーヤーがパスをしたり走ったりするのを妨げないようにします。

### 7 ノックオン・スローフォワード(反則)

- (1) プレーヤーがボールを受け損ねたり、ボールが腕や手に当たったりして、ボールが前に進むことを「ノックオン」といいます。
- (2) プレーヤーがボールを前に投げる、あるいは前にパスすることを「スローフォワード」といいます。

## 8 フリーパス

「フリーパス」とはボールを持ったプレーヤーがその位置から動かずに、レフリーの合図で、自分より後方の2m以内にいるプレーヤーにパスをすることです。

- (1) フリーパスは、前後半の開始、トライの後、6・7の反則があったとき、その他ルールで定められているときに行われません。
- (2) フリーパスのとき、防御側のプレーヤーは、すみやかにフリーパスの地点から5m下がります。ボールがパスされれば、前を出てもかまいません。
- (3) インゴール及びゴールラインから5m以内のフィールドオブプレーではフリーパスは行われません。この地域でフリーパスは、反則等があった地点に近い、ゴールライン前5mの地点から行います(「5mフリーパス」といいます)。

## 9 タッチ

ボールを持ったプレーヤーがタッチラインを踏んだり超えたりした場合、また、投げたボールがタッチラインに触れたり超えたりした場合は「タッチ」となります。再開はタッチになった地点から相手側のフリーパスで行います。ボールはタッチラインの外にいる、またはタッチライン上のプレーヤーが投げ入れます。

## 10 インゴール、タッチインゴール

- (1) ボールを持ったプレーヤー及びボールが、タッチインゴール及びデッドボールラインに触れた、または超えた場合、その直前にボールを保持していなかった側の5mフリーパスで試合を再開します。
- (2) プレーヤーが自チームのインゴールにボールを着けた場合、相手側の5mフリーパスで再開します。

## 11 禁止事項

試合中、プレーヤーは以下の行為をしてはなりません。これらが起きた場合、その地点で相手チームにフリーパスが与えられます。

- (1) 相手選手と接触・衝突すること。接触・衝突につながる行為をすること。
- (2) タグを取る以外の方法で相手の攻撃を止めること。
- (3) 相手をかかわす以外の方法で、相手がタグを取るのを邪魔すること。
- (4) その他、タグを投げ捨てたり、相手に文句を言ったりなど、周囲の人たちを嫌な気持ちにさせる全ての行為。

## 12 その他

競技規則にない状況が起きた場合、レフリーは試合停止を命じ、停止直前にボールを保持していた側のフリーパスで再開します。その時、タグの回数は継続します。

## 参考資料 3: 感染症予防について

---

### 1 基本的判断基準

大会開催を検討する際には、以下の条件がそろっていることを基本的判断基準とする。

- ①政府の緊急事態宣言が解除されており、かつイベント開催の自粛要請並びに都道府県をまたぐ移動の自粛要請が解除されている  
もしくは、緊急事態宣言等により示される要請に、具体的なイベント開催に対する指針が示されており、当該試合の開催が可能と判断されている
- ②政府や自治体によるイベント開催の自粛要請に、大会規模についての基準や分類がある場合は、その基準に照らしあわせて当該試合の自粛要請が解除されている
- ③大会の会場、宿泊施設等が運営されており、移動手段を含め、大会に必要な環境が確保できる
- ④参加チームの母体が活動を再開している  
※学校の場合は休校／施設封鎖等の解除、部活動の再開が行われている
- ⑤参加チームに十分な練習期間が確保されており、選手が身体的に試合に出る準備ができています
- ⑥選手及びチームスタッフ、選手会、選手の保護者など参加者の同意が得られている
- ⑦大会開催のための十分な医療体制・施設が整っている
- ⑧大会共催者・協賛社等の合意確認がなされている
- ⑨予選が必要な大会については、予選大会が実施されている  
※大会に応じて、予選方式の変更等を含め、予選大会の内容については検討され、合意されている
- ⑩上記の項目を踏まえた上で、日本ラグビーフットボール協会内の関係部署において大会実施が妥当との判断がなされ、合意されている

### 2 開催可否の判断時期

大会の開催可否の判断時期については、段階的な判断や判断時期に伴う開催方法の変更等、大会の特性に合わせ、大会により異なる判断が求められるが、以下のような要素を検討し判断する。

- ①試合に必要な最低限の練習期間
- ②関連施設や運営人員と移動手段の確保
- ③各施設や取引先とのキャンセルポリシーに基づく期日

### 3 開催の場合の大会の開催方法

- ①普及大会及び非興行大会については、政府あるいは自治体等による、イベントの開催に関する制限がすべて解除となるまでは、原則として無観客試合で実施することとする  
但し、政府、自治体等によりイベント開催のガイドラインが示されており、それと照らし合わせ、有観客での開催が可能と判断される場合はこの限りではない
- ②無観客試合において、会場内に入場できる関係者の範囲をチーム関係者のみとするか、保護者等も含めるか等の判断については、その時点における状況に鑑みて大会ごとに定めることとするが、極力少人数とすることを検討する
- ③いずれの場合も、後述の「4項」に定める運営方法を遂行できる試合会場における体制を整えることとする

### 4 大会の運営方法

チームの活動が再開し、試合の準備が整い大会を開催する場合、当然ながらこれまでの運営方法と異なる配慮や手配、意識の徹底が必要になるが、試合会場における留意点としては以下のような点が挙げられる

- ①試合の日の前日あるいは当日に、適切な方法、範囲で会場を清掃する
- ②会場における手指消毒液や体温計等の資材を用意する
- ③アクセデーション（AD）コントロールなどにより、会場を出入りする人が所定の位置で確実に管理されるようにする
- ④AD保有者に事後的に個別に連絡が可能となるよう、名簿を整備することとし、最低でも各関係者の代表者の連絡先を確保し、代表者はADを受領し当日会場にアクセスした個人の連絡先を保有していることを徹底する
- ⑤会場に出入りする関係者は必要最低限の人数とする
- ⑥全ての関係者は以下に従うこととする
  - 6-1 選手、チームスタッフ、マッチオフィシャルがピッチ上で活動する場合を除きマスクを着用し、手指衛生のための消毒をすること
  - 6-2 個別の手指消毒液や使い捨てのウェットティッシュを携帯し、使用すること
  - 6-3 自宅及び会場への入場前に検温を行うこと



- 6-4 不要な会場内の諸室への出入りを行わないこと
- ⑦ 全ての関係者が会場に入場する際の必須条件として、以下の項目を含む書面での確認を提出する
  - 7-1 現在、以下に記載の項目を含め、COVID-19 の感染の兆候が一切見られないこと
    - 7-1-1 COVID-19 に関係するいかなる症状も直前の 14 日以内に見られていないこと
    - 7-1-2 生活を共にする家族等にも COVID-19 に関係するいかなる症状も直前の 14 日以内に見られていないこと
    - 7-1-3 COVID-19 の感染者や感染が疑われる人に直前の 14 日間に接触していないこと
  - 7-2 高校生以下の大会において、出場選手の保護者が大会の参加に同意していること
  - 7-3 大会の医療従事者、及びチームのメディカルスタッフにおいては、直前の 14 日間に COVID-19 の感染者や感染が疑われる人を診察する際に、全ての感染防止対策を行い、適切な個人防護具（PPE）を着用していること
  - 7-4 医学的知見が必要な分野においては、専門家のアドバイスを仰ぎ、適切に対処する
  - 7-5 会場計画において、以下の点を検討しマニュアルなどに明示する
    - 7-5-1 会場における手指消毒、手洗い場の場所の詳細
    - 7-5-2 会場における人の出入りの管理方法の詳細
    - 7-5-3 会場内における人の動きを最小限にできるように設計された会場計画
    - 7-5-4 飛沫感染を防止するための、選手と関係者に対するガイドライン
    - 7-5-5 可能な範囲で、入り口もしくは、その付近に検温場所を設置して検温を行い、発熱や咳嗽などを認める体調不良の参加者は施設に入場させずに帰宅させ、必要に応じて保健所や医療機関への相談あるいは受診を促すこと
    - 7-5-6 観客や関係者に感染が疑われるものが発見された場合の隔離方法や動線等
    - 7-5-7 感染が疑わしき人物が発見された場合の試合の継続・中断・中止、また、その場合の試合や記録の取り扱いに関するポリシー
  - 7-6 試合後直ちに、適切な方法、範囲で会場を清掃し、ドアノブなどの高頻度接触部位は 0.05%次亜塩素酸ナトリウムあるいは 70%以上のアルコールを用いて消毒する
  - 7-7 観客を入れて大会再開を行う場合は、以下の点を検討項目とし、その時点の状況に鑑みてポリシーを決定する
    - 7-7-1 一部の座席の封鎖等観客が密接して着席しないようにするための施策
    - 7-7-2 観客入場の際の検温の実施の有無と方法
    - 7-7-3 運営関係者用のマスク、観客用消毒液の数量と確保方法
    - 7-7-4 消毒液の設置場所と管理方法
    - 7-7-5 売店や各種ブースの実施の可否と実施する場合の数、場所、運用方法
    - 7-7-6 観客に感染が疑われる事象が発生した場合の手順と隔離場所の確保
    - 7-7-7 上記の周知徹底方法